

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立飯能高等学校・定時制課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	名
	事務局(教職員)全定	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 1 8 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・中学校時代に不登校等を経験した生徒が多く、学校にマイナスの印象を持っている生徒も少なくない。生徒が前向きに登校し、安心できる居場所として期待され、問題解決の糸口として、教育相談が効果的に機能することが必要である。生徒と職員の信頼関係醸成のためには教科指導のみならず、学校行事や部活動等の特別活動が重要である。4年間の学習期間の中で、生徒が社会で自立した生活が営めるよう、より一層自主性、自律性、社会性を育み伸ばすことが必要であり、学校行事・部活動のより一層の伸長が必要である。	生徒が学校行事・部活動に主体的にかかわっていく指導をとおして自立できる力を育む取組。	①每学期生徒理解のための個別面談を設定し、これを通じて学校行事に主体的にかかわることが出来ているか振り返りを行う。 ②体育祭や学芸祭等の学校行事に生徒自ら主体的にかかわれるよう企画段階から支援・指導し、生徒の満足感・達成感を更に高める。 ③学校行事・部活動をとおして生徒間の親交を一層深め、他への配慮ができるようにする。 ④外部機関、外部講師と連携して在り方生き方教育を行う。	①個別面談の実施によって学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。 ②体育祭や学芸祭に生徒会役員をはじめ一人ひとりが主体的にかかわることができたか。また、満足感・達成感は昨年以上に高まったか。 ③生徒間のコミュニケーションが適切に図れ、他への配慮や気遣いがみられたか。 ④外部機関との連携が図られたか。また、学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。	・自立支援指導は順調に実施できた。 ①年度当初の三者面談に始まり、各考査後年5回の面談を実施。 ②体育祭の参加率 96%で昨年の88%から大幅に増加した。体育委員他、役員は準備から片付けまで熱心に取り組む事ができた。 ③学校行事や部活動は生徒間のコミュニケーションの機会として機能でき、友人間、先輩後輩間の関係作りが進み、お互いへの配慮や気遣いもみられた。バスケボール部は県3位に入賞した。 ④6月に業者を招いて進路ガイダンスを実施。11月の在り方生き方教育で介護分野の講師・卒業生講師を招聘し、見聞を深められた。	A	・生徒の状況に関して、不登校生徒が昨年度の27名から19名、中退数も昨年度の8名から5名と減少傾向にある。個別面談の実施について、欠点保有等以外の指導の観点を意識した指導手法を模索する必要がある。 ・体育祭、学芸祭は参加状況も含め、計画通り順調な指導ができています。その他の行事についても、生徒会役員を中心とした生徒の主体的な行事参加ができるよう指導を継続する必要がある。 ・今年度の外部講師は生徒の就職支援からも有効であった。来年も引き続き、一層の教育効果があるよう検討する必要がある。
2	・多様な学習歴を持ち、ほとんどの生徒が小中学校の段階で学習につまずいた経験をもつ。学習意欲に課題がある裏には学習面における成功体験の少なさも要因の一つと考えられる。分かる・できる体験を積み重ねることに一層意を注ぐ必要がある。	生徒一人ひとりに対して、分かる・できる学習指導を充実させ基礎基本を定着させる取組。	①学習サポーターを活用して分かる・できるを体験させ、学習意欲の向上を図る。 ②教員間の授業公開をとおして授業改善の方策を検討し合い、授業が分かる・できるという体験を積み重ねさせる。	①課題をもつ生徒への支援により、学習意欲の向上がみられたか。生徒自身ができるようになった実感を持てたか。 ②授業公開をとおして分かる・できる授業への取組がなされたか。	・学習指導の改善、授業改善の取り組みを実施できた。 ①学習サポーター・多文化共生推進員の丁寧な支援により課題を抱えた生徒も少しずつ、分かる・できる体験をしている。 ②11月に授業公開週間を実施。多様な学習歴をもつ生徒の入学もあり、授業の取組について日頃から活発に情報交換ができています。	B	・学習サポーターの配置を精査し生徒の学習意欲と努力を生かせる活用方法を工夫する。 ・就職支援アドバイザーの更なる有効活用を検討して、進路実現を可能にする生徒の就職支援の改善を実施する。 ・よりよい授業づくりについて引き続き情報交換を密にする。
3	・学校の教育活動には、保護者・地域の協力が欠かせない。4年間で生徒が大きく成長する定時制の特性を保護者、中学校、地域に十分浸透させるまでには至っていない。ホームページの積極的な更新と、保護者には学校行事への参加を促し、保護者との連携で教育改善を図る。あわせて中学校との連携を一層深める。	保護者との連携、中学校との連携を深め、働きながら学ぶ定時制教育を一層充実させる取組。	①PTA下校指導を年間2回実施し、学校と家庭で手を携えて指導にあたる。 ②学校説明会・中学校訪問を実施し、生徒の指導に活用するとともに定時制を正しく理解してもらう機会とする。 ③学校ホームページにより、学校情報を積極的にPRできたか。	①保護者の定時制への理解が深まり、協力が得られたか。子どもの成長を保護者が実感できているか。 ②学校説明会・中学校訪問を生徒理解に活用できたか。中学校への定時制PRの機会とできたか。 ③定時制の特性を正しく理解してもらうホームページ更新ができたか。	・PTA・中学校との連携、HP等広報活動の改善ができた。 ①5月、11月にPTA下校指導を実施し、PTA役員を中心に下校指導保護者の協力を得ることができた。 ②1月に市内の中学校他、在校生の多い中学校の訪問・情報交換を実施。 ③12月の学校説明会では、中学生・保護者の他、市内中学校教諭も来校。HP更新は1月19日現在、延べ100回以上更新。	A	・PTA下校指導は教員・保護者間、保護者同士の連携を深める機会としても機能している。次年度も継続実施する。 ・中学校との連携は、中学校側の定時制理解、本校の生徒理解、生徒募集の面でも大変有効である。引き続き平時から情報交換できる関係を構築していく。

学校関係者評価
実施日 平成28年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・特に1学年の出欠改善の状況には驚かされた。今後も生徒の力を引き出し、生徒にとってよりよい成果が得られるよう、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。 ・自立支援の指導は非常に難しいが、教職員が一丸となって、取り組んでいる姿勢が伝わってくる。次年度の取組を期待している。 ・同窓会も定時制に対して、可能な方法をさぐり応援していきたい。
・PTA、中学校との連携が十分に機能している様子がうかがえた。HP等で定時制の情報を適切に発信し、引き続き連携を強化して、教育活動の改善に努めて欲しい。